

## Ⅱ

高病原性鳥インフルエンザに  
おける今後の家畜防疫の対応

# 野鳥における高病原性鳥インフルエンザの発生防止対策のより一層の強化

## 経緯

1. 4月上旬、韓国で高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)の大規模な発生
2. 4、5月、秋田、青森、北海道で野鳥(ハクチョウ)からHPAIウイルス確認
3. 今回、農家の防疫対応の徹底等により家きんでの発生は防止

## 現状認識

- アジアを中心に世界的にHPAIウイルスの浸潤・拡散が進んでいる状況
- 国内へは渡り鳥等を介したウイルスの侵入リスクが高まっている状況
- 今後、防疫対策に漏れのないよう、さらにきめ細かな措置を講じ、HPAI発生防止に万全を期す必要

## 対応方針

1. 野鳥サーベイランスの強化(環境省)への協力 (通知)
2. 今後の防疫体制の強化  
◎政令、指針は家畜衛生部会に諮問
  - (1) ダチョウ等の家伝法追加 (政令、指針)
  - (2) 監視体制の強化
    - ① モニタリングの対象農場の拡大等 (指針、通知)
    - ② 報告徴求の対象に小規模家きん飼育者を追加 (通知)
  - (3) 防疫措置の見直し
    - ① 野鳥等でのHPAIウイルス確認時の10km圏内の家きんにおける立入指導等 (指針の運用通知)
    - ② 清浄性確認検査の早期実施及び搬出制限区域の縮小 (指針)
    - ③ 自家用家きん飼養農場で発生が確認された場合の効率的な移動制限区域の設置等 (指針)
  - (4) 防疫対策の強化(通知)
    - ① 飼養衛生管理の徹底
    - ② 危機管理体制の構築

HPAIの発生防止対策のより一層の強化

Ⅱ—1

## 野鳥サーベイランスの強化

# 野鳥のサーベイランス

## ポイント

- 環境省と連携し、野鳥の感染リスクを評価し効果的なサーベイランスを構築
- 都道府県レベルでの家畜衛生サイドからの協力体制を確立

## 現状

### 【アクティブサーベイランス】

- ①飛来時期に合わせた野鳥の捕獲調査(周年)

材料: 気管・クロアカのスワブ

- ②西日本でガン・カモ類の糞を採取する調査(秋～春)

材料: 糞

実施主体: 環境省

検査方法:

国立環境研究所でH5, H7PCR  
鳥取大学でウイルス分離

### 【パッシブサーベイランス】

- ③死亡野鳥の検査(適宜)

材料: 気管・クロアカのスワブ

実施主体: 都道府県 or 環境省

検査方法:

簡易検査のみで終える場合 or  
ウイルス分離まで行う場合

## 問題点

- 1 検査方法(簡易検査、PCR、ウイルス分離)のルールが未整備
- 2 検査陽性時の対応が不明確(消毒、焼却、連絡、公表など)
- 3 死亡野鳥の場合は、鳥種、時期、場所、死亡数など、検査を行うタイミングが不明確

## 対応方針

### ◎マニュアル作成 (環境省での検討)

- 1 効果的なサーベイランス  
ウイルスの保有を勘案し効果的に実施

①鳥種、死亡羽数等

②時期、場所

③検査方法 など

- 2 検査時の対応

死亡野鳥捕獲時、検査陽性時の対応の明確化



⇕ 環境省と連携

### ◎家畜衛生サイドからの協力

○アクティブサーベイランス

動物検疫所、動物医薬品検査所での協力

○パッシブサーベイランス

都道府県家保での協力